

健 康



柿内 聰司

県立中央病院
呼吸器内科部長

回答

ACPは方が一に備えて、自らが望む「人生の最終段階の医療、ケアの方針」について、患者自身を主体に、家族や友人といった信頼する人たちや、医療、ケアチームと繰り返し話し合い、共有していく取り組みです。画一的な対応ではなく、患者自身の人生観や価値観、希望に沿った医療、ケアの具体化が目標です。

例えば、抗がん剤治療中の患者の場合、「孫の結婚までどうしても元気でいたいから、治療を頑張つて続けたい」「治療を早めにやめてゆっくり過ごす時間をつくりたい」など、本人の優先事項によって最適な治療は異なります。より進行したがんの患者でも「延命治療は受けたくない」「住み慣れた自宅で最期まで過ごしたい」「動けなくなったら家族に迷惑を掛けたくない」など

3年前に進行期の肺がんと診断され、免疫療法や抗がん剤治療を受けてきました。担当医からアドバンス・ケア・プランニング(ACP)を勧められました。ACPについて詳しく教えてください。

肺がん進行 ACPとは

アドバンス・ケア・プランニングの進め方

- ステップ1** もしもの時、自分の代わりに治療、ケアについて決めてくれる家族や友人を考えておく
- ステップ2** その家族や友人と終末期に大切にしたいことを共有する
- ステップ3** 病気の見通しや治療、ケアについて担当医から説明を受ける
- ステップ4** 回復が難しくなった時に受けたい治療、ケアを家族らと話し合う
- ステップ5** 話し合いの内容を医療、ケアの担当者に伝える
- ステップ6** 病院・訪問診療医師、訪問看護師、ケアマネジャーらが連携し、希望に沿うプランを立案、準備する

がん何でもQ&A

がん何でもクイズ
がんを英語で何というか。
①answer②cancer③dancer

行こうよ！がん検診

有意義な人生へ自ら選択

元気な時
▼
重い病気になつたら

(第4土曜掲載)

病状の変化に合わせて
繰り返す

今は2人に1人ががんになり、3人に1人ががんで死亡するとされています。がんの告知を受けた上で、医師や看護師、ケアマネジャー、ソーシャルワーカーのサポートの下、よく話し合ってプランを立案し、実現していきます。しかし、がんでなくとも人間には必ず一度、最期の時がやってくるものです。しかしながら、がんで生きることを知らざることは、患者にとってつらいことです。

長い介護を要する病気、突然最期がやってくる病気と比べ、進行がんは自身でライフスタイルに合わせた生き方を選んで決めるこどとのできる数少ない病気の一つです。ACPは患者や家族にとってつらい体験になる可能性があり、注意が必要。とはいえ、まずは家族、そして担当医をはじめとする医療、介護スタッフと思いを共有しておこうようにしましょう。

がんに関する質問は
徳島がん対策センター
電話 088(634)6442
(平日午前
8時半から
午後5時ま
で)

